

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.30		-	3.1
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		-		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		1.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		-		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御		-		3.0	0.50	-	-	
1 室温		-		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		-		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用		-		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		-		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		-		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		-		3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策		-		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		-		3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		-		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		-		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		-		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		-		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		敷地内を全面禁煙とした。		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		-		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		-		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-		3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		-		3.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理		-		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理しやすい内外装に配慮した。		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃のしやすさに配慮した。		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		-		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VP(B)、給湯SUS(C)、雑排水VP(B)、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		-		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.2	0.30	-	-	3.2
	3.1 空間のゆとり		3.8	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	-	3.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1とした。	5.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.8
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.54	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI*=0.49	5.0	0.50	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価		5.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	壁・天井にLGSを採用することに依り、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。再利用可能なOAフロアも採用している。	5.0	0.22	-	-	
	2.7 廃棄物発生量の最小化		5.0	-	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.5	0.20	-	-	3.5
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.7	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	4.5	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率を52%とした。	4.9	0.33	-	-	4.9
2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1 大気汚染防止	大気汚染防止に配慮したボイラーを採用した。	4.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	適切な量の自転車置場、駐車場及び荷捌き用駐車施設を確保している。周辺道路の渋滞緩和対策は、OUT・INをそれぞれ専用としている。	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別、生ゴミの減容化・減量化に配慮した。	5.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-		○	-	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	○	○	○	○	○	○	-	○			-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	○	○		○	○	○		○	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	2.0	1.0	3.0	-	-	-	-	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○										
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		1.0	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0		1.0	1.0	1.0	1.0		1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 1.5%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 3.3%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 30.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 4.5% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 25 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.2 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 9.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 4000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 33% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 61% 水平投影面積率 15% 地表面対策面積率 31% 舗装面積率 44%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.54 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0% 太陽光 61.5kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI _m 再エネ有 0.00 無 0.49 オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 無 - -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 65% 隣棟間隔指標R _w 2.98 地表面対策面積率 42.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 624㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 141.63 m 基準高さH _b 6.72 m 緑地 1,967㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡